

# 押立地区

令和3年8月29日 (押立ふれあい会館)

No.	質問内容	回答
1	水害時に避難する際、お年寄りや子連れ等、遠方へ避難するのが困難な人に向けて、垂直避難できる新規施設の新設してほしい。	費用対効果、用地の取得、施設の維持が課題となる。将来の人口減少、税収の減少に向けて今ある施設を維持することができず、他自治体では施設を統合し減少している自治体もある。行政としては初めから浸水想定域内に逃げるといった方向性は考えにくく、浸水時のための新たな施設整備は難しいため、ソフト面の対策を充実してまいりたい。 市内のバス業者と応援協定を結び送迎用のバスを契約した。浸水が予想される時は押立地区にバスを運行する。車で避難できない人はバスを利用して欲しい。また、避難時の駐車場として全ての避難所となっている学校の校庭を開放してもらえよう、教育委員会に了解を取っているため、水害時の避難は車で道路が冠水する前に浸水エリア外に避難して欲しい。
2	稲城大橋側道に中木が集中して植えてあるため、警察の看板や歩行者が見にくく、見通しが悪い。また、タイヤなどのごみを捨てられることもあるので根元から伐採してほしい。	街路樹については場所を確認し、個別に対応を検討する。  【後日、管理課にて次のとおり対応】 ご要望の箇所（稲城大橋側道）については、東京都が管理している都道であり、東京都に要望内容を伝えた。以前も稲城市から東京都に同様の要望を行っているが、再度現地を確認し、対応について検討すること。
3	市内にシェアサイクルの設置が進んでいるが、使い方が分からない。	利用は全てスマートフォンにてインターネットで手続きする。登録など分からないことは観光課に連絡して欲しい。また、各ステーションに使用方法のビラを設置している。
4	水害時、自分で避難するにも逃げ遅れる人がいるため、垂直避難を推進してほしい。	垂直避難するための堅牢な施設を作るとするのが唯一の解決策とは市の方向性としては考えていない。ギリギリまでバスを運営するので、なるべく逃げ遅れないようにすることを推奨している。くろがねやの屋上駐車場は災害時においては誰でも利用できるようにしている。どうしても逃げ遅れた場合は学校施設など既存施設に垂直避難する必要があるが、市としては最初からの垂直避難は推奨していない。